（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	あんプラス三ノ輪			
○保護者評価実施期間	2026年　10月　1日	～	2026年　10月　14日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	50	（回答者数）	36
○従業者評価実施期間	2026年　10月　1日	～	2026年　10月　14日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　10月　27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性やニーズに応じた支援	子ども一人ひとりの特性や発達段階、保護者のニーズを踏まえて個別支援計画を作成し、具体的な支援内容を設定している。個々の理解度に応じた声かけや説明を行い、学習や日常生活における成功体験を積み重ねられるよう支援している。	引き続き個別支援計画に基づいた支援を実施するとともに、子どもの成長や課題を職員間で共有し、支援内容の振り返りと見直しを行うことで、個々の特性に応じた支援の質を高めていく。
2	子どもが安心して楽しく通える環境と職員の関わり	子どもが安心して過ごせるよう、日々の関わりや声かけを大切にし、一人ひとりの気持ちや特性に配慮した支援を行っている。また、子どもが楽しみにできる活動を企画し、通所への意欲や安心感につなげている。	子どもが安心して楽しく通える環境を継続するとともに、音や活動環境への苦手さなど、個々の感じ方にも配慮し、必要に応じて活動場所や職員配置を工夫していく。
3	活動プログラムの多様性	活動内容が固定化しないよう、外出やイベント、学習等のさまざまなプログラムを企画している。また、保護者からの相談に応じて一緒に考え、日々の子どもの様子やけが等について必要な情報共有を行っている。	子どもの興味や発達段階に応じた活動の幅を広げるとともに、日々の様子や成長、支援上の課題を保護者と共有し、家庭と事業所が連携した支援につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	感覚特性に配慮した環境調整と施設・職員体制	子どもの活動内容や人数によっては、音や周囲の刺激が気になりやすい環境になることが考えられる。また、送迎時の引き渡しが中心となることで、保護者が施設内の環境や職員体制を確認する機会が限られている。	子どもの感覚特性に応じて活動場所や職員配置を工夫し、必要に応じて静かに学習できるスペースの確保を検討する。また、職員紹介や施設内の環境に関する情報提供を行い、保護者が事業所の支援体制を把握しやすくする。
2	家族支援・保護者同士の交流・地域交流の機会	現在、保護者同士の交流やきょうだい向けイベント、地域の子どもとの交流などの機会を十分に設けていない。また、家族支援プログラムや研修会等についても、実施や情報提供の機会が限られている。一方で、保護者からは現状の支援で十分との意見もあり、必要とされる支援内容には個人差がある。	保護者のニーズを把握し、必要に応じて子育てに関する情報提供や相談機会の充実を検討する。また、保護者同士の交流や地域交流についても、事業所の状況や保護者の希望を踏まえながら、実施可能な方法を検討する。
3	日々の支援の確認体制と、保護者への情報共有	日々の支援や学習課題の確認について、職員間で確認方法や確認の徹底に差が生じている可能性がある。また、相談や事故対応の体制が整っていても、実際に相談や事故を経験していない保護者には、その対応方法や連絡体制が十分に伝わっていないことが考えられる。	学習課題や支援内容について、提出・返却前の確認を徹底し、必要に応じて複数の職員で確認する仕組みを整える。また、相談窓口や事故発生時の連絡・説明の流れを職員間で共有し、保護者にも対応体制が伝わるよう周知を図る。